

旅する工具屋



第三話：困難に立ち向かう旅人，温泉を目指す

観光客と旅人，どちらも旅行をする人を指しますが違いはどこにあるのでしょうか。特に明確なボーダーは無さそうですが，私の勝手な考えでは，問題に直面した時に「諦める or 他人が責任を負ってくれる」のは観光客，「対処する or トライする」のが旅人。つまり，受けたアクションに対して自分 1 人で(強く)リアクトできるかどうかボーダーだと思っています。そして私が自身を「旅人と扱ってもいいのでは？」と思ったのはアイスランド旅行が初めてでした。

朝 1 時，着陸した空港の看板に違和感を覚えました。首都のレイキャヴィク空港に着いたはずが，看板にはケブラヴィクと書いてあるのです。実はケブラヴィクは首都に最も近い国際空港で，ケブラヴィク空港着でも国際線は「レイキャヴィク行き」と表記されます。そしてレイキャヴィク市内には小さい空港があり…。てっきり市内の空港に着陸したと思っていた私は，自分が 50km 以上離れた所に居る事に気付き唖然としました。

市内行きのバスを見つけて運転手と交渉した所，事前予約・支払いが無くてはダメの一点張り。困った挙句，空港の Wifi を利用して適当な便をとりあえず購入，運転手に「便の変更」と説明して乗ることができました。これからは羽田と成田を間違えた外国人を笑えないな，と思いつつ，無事レイキャヴィクに向かう安堵感に身を委ねて短くも深い眠りへと落ちてゆきました。

レイキャヴィクによやくたどり着いたのは朝 3 時，真っ暗な街を想像される方も多いかもしれませんが，私が訪れた 6 月はほぼ白夜の時期で真昼の様に明るかったです。予約している周遊バスの時間にはまだ時間があったため，朝まで営業しているバーで少し飲み(物価がとてつもなく高い事に驚き)，街を散歩して時間を潰しました。そしていざバスに乗り込む時間となり，呼ばれない自分の名前に第二のヤマ場を直感的に感じました。

バス会社に電話し，自分の状況と予約番号等を伝えるとすんなりミスを認め，次のバスで拾う事を約束してくれました。しかし私は別の所へ行くバスを夜に予約しており，全体の時間がずれ込むと夜の便に乗ることができません。その旨を相談すると，夜の便も一つ遅いものにしておくと快諾してもらえました。親切なサポートに感謝しつつ，40 分後に来た次のバスに乗り私の気持ちはゴールデンサークルに高まります。



アイスランドは地球上でも数少ない、大陸プレートに分岐点(ギャウ)を地表で見ることが出来る国で、こっちがヨーロッパ、そっちはアメリカといった具合に異なる大陸を同時に見ることが出来ます。ほかにも20分に一度、15m以上の高さにも届く間欠泉や、フラッシュグリーンの苔に包まれた大地に突然現れる滝など、郊外1周でこの国独特の自然をざっくりと把握できます。名に恥じぬゴールデンサークル、行った事が無ければ是非一度足を運んでみてください。

夕方にバスロータリーに着いた私は意気揚々と最終目的地であるブルーラグーン行きのバスチケットを発券しにカウンターへ行きました。朝電話で便変更を頼んだため次のバスが出る時間を知らず、夕食をどこで何を食べるか考えながら待ちました。そう、私は空腹だったのです。「最終のバスはもう出ちゃったよ」と言われるまでは。

衝撃の一言、霞みゆく夢のブルーラグーン、私は凍り付きました。しかしこの旅で、私はある種の気持ちの切り替えが出来るようになりつつある事を感じていました。当時それが何なのかよく分かっていませんでしたが、今はそれが「観光客」から「旅人」モードへの切り替えスイッチだと確信しています。

朝の電話内容を説明し、責任を取って欲しい事やバスが無いならタクシー代を負担するなど代替案を出すように迫りました。真面目に取り合わない対応者を非難し、理解のありそうなスタッフに訴え続ける事15分。勝ち目は薄く感じましたが、他にできる事はありませんでした。次第に人が増え、現地語でモメ始め…最終的に厳しい顔つきの年配の男性がカウンターに登場します。強面を出して返金処理で済ます気かな、雰囲気では私はそう感じました。しかし意外にも

彼は「私が君をブルーラグーンへ連れていく」とハッキリ言いました。そしてさらに驚いた事に、彼が出した車は50人以上乗れる様な観光バスだったので。

私一人だけを乗せた大型バスは高速道路を飛ばし、苔と溶岩しかない大地をひた走ります。そして遠くに雲の様な大きな湯気が出ているのが見え始め、ブルーラグーンの看板が見えた時、自分が問題を乗り越えて目的を達成したと感じました。



名物の泥パックをして乳白色の湯に浸かり、この旅をふと振り返った時、私はアイスランドに来て本当に良かったと思いました。自然が綺麗だったとか、温泉が気持ち良いとかではなく、自分を強くしてくれた事に対して感謝の気持ちを抱かずには居られなかったのです。

新しい気持ちと新しいTシャツで歩き出した途端、スコールの様な猛烈な雨が私を襲いました。そして濡れた私をあざ笑うように晴れる空。アイスランドの天気は短時間で変わりやすく、「天気が気に入らない？それなら5分待て」という有名な文句があります。この国は最後に伝えたかったのかもしれませんが。観光客・旅人に多少の違いはあれど所詮は人、天気を選ぶ事などできないのだと。

文：ペンネーム 17chandler